

別府市新図書館等整備 基本計画策定委員会

第5回会議

令和2年2月17日（月）

①

オープンラットフォーム会議vol.4 報告

②

第4回まとめ

1 管理運営の基本的な考え方

①

- ・ マネジメント部門（施設全体運営、子育て支援、市民活動、広報PRなど）を行政がハンドリングをしながら、民間の創意工夫が必要な部分もあるので、公民連携することが重要である。
- ・ **市が責任を持って行う部分と、単に民間に渡したほうが効率的で動きやすい部分も公民連携のグラデーションでどこまで混ぜ合わせていくのか、そういう方向性を目指していこう。**
- ・ **インプット関連の図書館業務は行政主体で行う。**
- ・ **アウトプット関連の事業企画部門（連携事業、イベントスクールなど）は民間のノウハウを活用した民間主体による運営。福祉、健康、アート、教育、カフェなどに関連する民間事業者が常に入れ替わっていく。**
- ・ **企業支援、ビジネス支援はマネジメントそのものなので、マネジメント部門が担う。**
- ・ 公と民で分断されないように、施設全体をマネジメントする組織は力がある組織が必要。
- ・ 図書館はサービス業、常にお客さんと対応する。お客さんは人につく。そのためには、**一貫したコンセプトをしっかりとって、その思想を受け継がれていく組織が必要。**
- ・ 図書館の基本機能には、司書というプロフェッショナル、図書館運営に担っていける人材を置かなければならないし、契約形態についても市が責任を持って行うような仕組みをつくらなければいけない。

1 管理運営の基本的な考え方

②

- ・体制を考える上では、その業務がAIに代わる可能性も視野に入れて検討すべきである。
- ・別府の未来を見据え、未来を担う人材が生まれてほしい。そのための多機能な場の全てを、館長がマネジメントすることは難しいように思う。その機能は民間に委ねるべきだと思うが、その民間事業者もパブリックマインド、公共の精神、公共の責任を理解したリーダー人材が必要である。
- ・**1つは図書館事業。2つめは交流、創造、起業支援事業。3つめはサードプレイス。4つめは子育て支援や主張サービスなど。**それら事業を総覧して4つくらいに絞り込み、プロポーザル方式でやりたいところに手を挙げてもらうのがよい。
- ・**大きい方向性として、施設運営は直営か指定管理かではなくて、別府の状況であるとか、人材にちゃんとフィットするハイブリットモデルを模索する。**ある程度、市がイニシアティブを取りながら詳細を決定していくというプロセスを、今後詳細に詰めていく。

2 事業スキーム、営業時間、休館日について

- ・ **図書館運営の一般財源における割合は、**一般的に大体0.3%～1%前後といわれており、類似施設として挙げた事例をみても0.3%～0.8% で、**運営方式（直営・指定管理）による差はあまりない。**
- ・ 休館日や開館時間は直営と指定管理では異なり、直営の場合は休館日は週1回で設け、開館時間も9・10 時～19・20時、指定管理の場合は休館日なしで22時まで開館しているところもある。
- ・ **機能や利用者想定に応じて、営業時間は設定すべき。全館が全部、同じ時間帯に営業している必要はない。**

3 基本理念について

- ・人が集って、生き生きした空間。そこに行ったら、ここが自分たちの町で良かったなと思えるような空間。
- ・ただ人が集まる空間をつくるのではなく、その中に人としての深み、歴史としての深みがある場。
- ・この図書館を絵にすると、お皿＝知があって、その中にメインディッシュのステーキ＝図書館があって、ポテトサラダ、野菜＝関連した機能であり、それがワンディッシュになっているイメージ。
- ・利用する人たちが、いろんな方々が自分の場所として感じてもらえるような居場所。
- ・財政にも関わってくることなので、学ぶためのコンセプトをしっかりとつくっていくことが大事で、ぶれないようなコンセプトをつくる必要がある。
- ・人が育っていく、本人が気が付いてないチャンス、能力を開花させるチャンスが与えられる場が必要。そのための場として夢を実現させる、そのための機能がある図書館。
- ・図書館の持つ機能が核としてるのは心を耕す。国際温泉文化都市、文化という点で、この新図書館はものすごくインパクトある。別府市民が一番、誇れる知の宝庫になる泉都ライブラリー。
- ・人が育つ、人を育てる。別府の入り口であり、出口となる場所。
- ・コミュニティをつくる図書館であるべき。

③

別府市新図書館等整備基本計画

素案審議

1. 基本理念について

